



▲堂々と、卒業証書を受け取る飯館中卒業生



▲友と一緒に担任の先生を囲んで、最後の記念撮影



▲園児から保護者へ感謝を込めてお花をプレゼント



▲3校の全校生徒に見送られた卒業生です

3月、村立幼稚園・小・中学校の仮設校舎でそれぞれ修了式、卒業証書授与式が行われ、幼小中合わせて89人が慣れ親しんだ学び舎を卒業しました。

3月13日、飯館中学校仮設校舎で行われた卒業証書授与式では、卒業生を代表し、巻野雄汰さんが「震災後、困難なことがあっても、支えてもらった人のおかげで現状に向き合うことができました。今はただ、ありがとうと言えないけれど、感謝の気持ちを行動に移せる人になっていきます」と、これまでの感謝と、これからの抱負を述べました。

笑い、泣き、 共に喜び合った思いを胸に 村立幼稚園 小 中学校卒業式



▲胸には保護者手作りの花飾りが光ります



▲卒業生から保護者へ感謝の言葉がありました



▲3回のワークショップを経験した子どもたちです

企画・運営を行った大学生は「自分を知ること、将来、たくさんの職業の中から自分により向いている職業を選ぶきっかけになってほしいです」と期待を話していました。

この事業は、来年度も引き続き行われる予定で、今後も村の小学生の職業観を育んでいきます。



▲ゲーム感覚で「自分」のことを考えました

3月7日、村とNPO法人日本教育復興連盟（東京都）は、村の小学生の職業観を育てることをねらいに、今年度3回目のワークショップ「つぼみプロジェクト」を村役場飯野出張所で行いました。

参加した小学生は、これまで東京都にある企業に訪問するなどして将来の仕事や「はたらくこと」について考えてきました。今回のテーマは「楽しみながら自分を知る」こと。自分がどんな人なのかを知ること、将来の職業を選択する際に活かして欲しいとのねらいで開催されました。

大学生と一緒に考える 将来の自分



▲コシノジュンコさん(後列中央)を囲んで



▲約3100点のカタツムリの絵が展示されました

コシノさんは「子どもは誰でも芸術家。子どもたちが思いを込めた絵で描きつながった。交流が今後も続いてほしい」と話していました。

コシノさんは、一昨年に村仮設小学校を訪れ、全校生徒とたたつむりの型に切った画用紙に絵を描く特別授業を行い、完成した絵はブラジルや東京での展示を経て、今回のアート展で展示されました。

日本を代表するファッションデザイナーのコシノジュンコさんが、日本とブラジルの子ども達の文化交流を図るために企画した「かたつむりアート展」の記念セレモニーが3月14日に郡山市で行われ、コシノさんと村児童が再会しました。

コシノジュンコ
プロデュース
日本とブラジルの
子ども達が描いた
かたつむりアート展